

津田塾大学 数学・計算機科学研究所報

8

第4回
数学史シンポジウム

(1994)

1994

津田塾大学 数学・計算機科学研究所

はじめに

この研究所報第 8 号は、1993年10月23・24日に行われた津田塾大学数学・計算機科学研究所主催の第4回数学史シンポジウムの記録である。

刊行が遅れたのは、編集者杉浦の責任であり、早くから原稿をお寄せ下さった方々、刊行を待って下さった方々にはお詫びする外はない。

現在の日本で数学史のシンポジウムを続けることには種々の困難があるが、講演者参加者の熱意と研究所の支援により、第4回を迎えることができたことは、誠に有難いことであり、厚くお礼申し上げる次第である。

1994年9月20日

津田塾大学数学教室

杉浦光夫

目 次

黒川 信重	し関数の歴史	1
三宅 克哉	代数的数論—Zolotareff の場合	4
笠原 乾吉	アーベルと特異モジュラー方程式	1 8
高瀬 正仁	クロネッカーの数論の解明 II アーベル方程式の構成問題への道	2 3
鹿野 健	いたる所微分不可能な連続関数の話題	7 5
足立 恒雄	純粋数学のあけぼの —— 古代ギリシャにおける数学と哲学の交流	8 0
斎藤 憲	古代ギリシャにおける比と比例の定義	1 1 1
清水 達雄	零の発見とイスラムの諸文学	1 1 7
杉浦 光夫	シュヴァレーの群論 II	1 2 7